地域福祉活動職員の
まなこ
地域福祉活動推進のために

No.86　2019年・10月発行　福岡県地域福祉活動職員連絡会

【先輩ワーカーから学ぶ研修会】

「個と地域をつなぐ生活困窮者支援・権利擁護コミュニティソーシャルワークを実践する社協（私たち）に求められる眼（まなこ）」

講　師　大阪府 寝屋川市社会福祉協議会 高橋 俊行さん
と　き　令和元年5月31日（金） 15：30 ～ 17：00
ところ　ＪＲ博多シティ９階　会議室１
報　告　岩永信輔／福津市社協

社協ワーカーとしての苦悩

高橋さんは、大学時代に地域福祉論で「住民主体の原則」というフレーズに引き付けられ、社協を目指すようになり、卒業後に寝屋川市社会福祉協議会に入職しました。

地域福祉や当事者組織に携わることにあこがれて入職しましたが、配属された部署は総務係でした。会計や給与、貸付、会費などの総務の仕事に携わり、大切な仕事と分かりつつも「やりたかった仕事と違う。」という思いが強くあったそうです。

こうした思いを抱えながら仕事に取り組んでいた時に、地域福祉時事研究会（現：関コミ大阪）、関西社協コミュニティワーカー協会、全国社協職員のつどいに出逢います。その中で多くの先輩・後輩ワーカーと横軸の関係（一人のワーカーとして）で語り合い、刺激を受け、社協人生が大きく変化していきます。

ある先輩ワーカーからの「社協職員は全員がコミュニティワーカーだ。総務係でもコミュニティーワークはできる。総務の仕事も面白い。」という言葉にはっと気付かされます。

「誰のために。何のために。」を大事に総務係として、社協予算の査定を行うことも、地域福祉の財源をコーディネートすることも、地域福祉の根幹を担う仕事として捉えると仕事の見方が大きく変わります。

こうした出逢いや経験から、今の仕事の意味やこれまでやってきた仕事を見つめ直すことの大切さを感じるようになったそうです。

社協ワーカーの可能性は無限大

高橋さんは、永年、総務係に従事した後、地域福祉係、地域包括支援センター、災害支援等に従事し、現在は生活支援課に配属されます。

社協ワーカーとしての苦悩の中で気付いた姿勢は、どの部署の業務でも、いろいろな可能性を引き出してくれます。

生活困窮者自立支援事業を受託することになった際には、生活福祉資金や善意銀行など、これまで社協がやってきたすり合わせからスタートしました。

「これまで資金の貸付対象にならなかった方はそれで良かっただろうか。事業を受託するのであれば、その方々をどう支援していこうか。」とこれまでの仕事

を見つめ直し、事業の意味を考えることで、より充実した事業を作り上げていきました。

与えられた事業をただこなすのではなく、全員が主体的に関わり、作り上げることをみんなが共有することで、既存事業の充実や新規事業の構築を行うことができます。

事実は一つでも見る角度で意見が変わります。常に誰のためであるか、何のために行うのかを常に意識し、「なぜ?」と疑問を持ち続ける社協ワーカーの可能性は無限大です。

私たちの実践には、社会性があり、必ず生活課題が潜んでいます。

生活課題も見る目によって大きく変わることもあります。一人ですべての角度から見つめることは不可能です。チームとして、多くの角度から見る眼、疑問を持つ眼をもって事業やケースに取り組んでいくことが大切です。

実践力を育む

このような姿勢を身に付けたうえで得るべきは実践力です。

業務を通じて学ぶことができる実践力は、事業を知り、地域を知ることに始まります。まちの歴史や現状を知ることは重要な基礎です。

また、今行っている事業の過去を知ることも重要です。当時どのような社会背景で、どのような目的をもって作られたのかを知り、現状と比較することは、その事業について疑問を持ち、考えるための基礎となります。

この基礎を備えたうえで、先進的な事例を研究し、より深い学びを得ることができます。また、事例は資料や文献で学ぶだけでなく、自分の足で出向き、直接触れることでより効果的な学びになります。

学ぶ、聞くだけでなく、議論し、自分の想いを声にして語ることも重要です。

業務時間外での交流は管理職であっても新任職員であっても、一人の社協ワーカーとしてフラットな関係で語り合うことが出来ます。議論し、自ら発表し、アドバイスを受けることでより実践力を養うことができます。

年を重ねると自社協内にはどんどん上司、先輩がいなくなります。他の社協職員とどれだけ出会えるか、業務内外で議論できる仲間をつくることが重要です。

自分自身の社協ワーカー人生を考える

社協ワーカーとしての人生を歩んできました。プライベートの自分もワーカーとしての自分の人生に大きな影響を与えます。

高橋さんは「社協ワーカー人生は自分の人生とリンクしている。」と話されます。自身が子育てや介護に関わることで見える課題や疑問を感じ、それに対する提案を思い浮かべることができます。

プライベートでの多彩な経験は、提案を多彩にするための肥やしとなります。今回、ワークを通して自分自身のワーカー人生を振り返り、将来を考えることができました。

高橋さんのお話しを聞いて、改めて自分の人生を考えてみると、多くのことに気付かされました。特に仕事に対して疑問を持ち続ける姿勢、自分の想い、考えを言葉にして発することは、とても重要であると感じました。

講演の冒頭に、高橋さんから「地職連は自分たちのもの。大切にしてほしい。」というお話しがありました。自分の仕事を見つめ直し、想いを言葉にして語らう場として今後も主体的に関わっていきたいと思いました。

「福岡県 地域福祉活動職員連絡会 令和元年度全体会議」

とき　2019年6月28日（金）
13：30 ～ 17：00
ところ　クローバープラザ　５０２研修室
報告　伊達智和／新宮町社協

今回の全体会議は、事前に参加者より募ったテーマの中から、当日その場でテーマを決め、全員で語り合う方法で行われました。

十八社協二十二名が参加し、日々の業務の中で行き詰っていることや聞きたいこと、共有したいことについて同じ立場のワーカー同士で議論しあい、新たな視点や考え方の整理を行いました。

『ひきこもり支援について―本人に困り感はないが家族や近所の方は心配している―』

・社協は、相談があったときに対応できる・つなぐだけの情報を持っているだろうか。
・当事者・家族・支援者と関係性を構築できているだろうか。
・地域を巻き込んだアプローチを考えているだろうか。
・個別支援だけで終わるのではなく、様々な課題に対する啓発・福祉教育ができているだろうか。

『小地域における見守りネットワーク―福祉委員制度等見守りの仕組みや協力者との関係―』

・福祉委員等は始まった背景によって状況に違いがある。立ち上げの経緯や当時の思い（住民・職員）を私たちは理解できているだろうか。
・地域アセスメントが十分でなければ、どんな活動でもいずれ歪みが出てくる。
・住民をうまく活用（利用）しようなどと思っていないか。そんなことを思えば見透かされる。

『自立支援型地域ケア会議―個別ケースから見えてくる地域課題とは―』

・個別ケースから地域課題を見つけ出すのは難しい。社協として地域資源の情報提供や地域課題を話すことで、専門職の人たちにも地域について知ってもらってはどうか。

『多機関との連携―行政や企業との連携や社協の情報発信―』

・地域が求めていることと企業の想いがマッチできているだろうか。また、そのパイプ役に私たち（社協）はなれているだろうか。
・お願いするばかりでなく企業や商店側のメリットや安心材料を担保することも大切。
・個人的なつながり（職員として、住民として）が大切ではないだろうか。

『伝わりやすい言葉・対応―窓口・相談対応で心がけていること―』

・自分のペースや価値観を押し付けていないだろうか。「支援」という目で見すぎていないだろうか。
・本人が困ったときにつながる（頼ってもらえる）関係性をつくれているか。
・相手の理解を深められるような話し方ができているだろうか。また、それだけの情報量・語彙力を私たちは持てているのか。
・相手に合わせて説明ができているのか。

『コミュニティワークの方向性―地域のビジョンの考え方―』

このテーマについては、私たちがコミュニティワークを進める上でのアプローチとして、どう考えているのかということから入り、①ワーカーが考えるものを地域と共有するのか、②ゼロベースで地域と一緒に考えていくのか、が中心となった議論を交わしました。

・ワーカーとしてのビジョンを持ちつつ地域と一緒に考えていきたい。
・最初の声は誰か？地域？当事者？その時々で考え方は違うはず。どちらにしろ、イメージを具現化することや代弁することが私たちの役割ではないか。
・社協職員間でのビジョンの合意形成・共有がはかれているか。

担当者の声

今回の全体会議では、若手からベテランワーカーまで思い思いに語り合い、一緒に悩み・考えることができ、新たな気づきや内省する場になったのではないかと思います。

全ての議題で正解は出ていませんし、ヒントにすらならなかった議論もあったかと思います。

それぞれの議題で、感じたことは、

「なぜ?」と問い続け、現状や課題分析、物事の主題を見つけることが出来ているか、その歴史や経緯を知っているか・理解しようとしているか?そんなことが大切ではないかということです。

その問いがなければ流されるまま・分からないままに、「それっぽいこと」をしているに過ぎないのかもしれません。

「なぜ社協は引きこもり支援をするのか?(なぜしないのか・できることはないか?)」

「なぜ多(他)機関と連携するのか?(なぜしないのか・できることはないか?)」

「なぜ社協は地域福祉を推進するのか?(なぜできないのか・できることはないか?)」

これらの答えに、正解はありませんし、その答えが相反すること・対立を生むこともあります。議論することが怖いと思うことさえあると思います。しかし、常に問い続けることだけは止めてはいけません。

ですが、一人でできることには限りがあります。そんなときにこの地職連をうまく利用してほしいと思いますし、多くの方に主体的に参画していただきたいと思います。

福岡ブロック 新幹事紹介

幹事

中山 枝里子(なかやま えりこ)
福岡ブロック
(志免町社協)

私は、志免町社協に入職後すぐに、地域包括支援センターで仕事をしていました。

高齢者の方の相談を受ける仕事を十年してきましたが、今年度より、地域福祉係の部署に移動し、前任の職員が担当していた、地職連の幹事という役目をさせていただくことになりました。思いがけない事ではありましたが、地職連の活動に関わらせていただき、多くの方々と一緒に学ぶ機会を得られるので、この機会に、新しい知識や人とのつながりを増やしていきたいと思います。研修の企画や実施は、慣れないことではありますが、参加した皆さんが、仕事に役立つ何かを、一つでも持ち帰ってもらうことができるものにしたいと思います。

自分自身の成長のためにも、一年間、皆さんと共に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

公募枠新幹事紹介

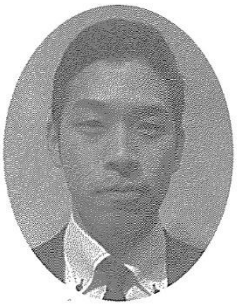
幹事

及川 泉(おいかわ いずみ)
筑豊ブロック
(築上町社協)

今回、恐れ多くも一般公募枠で立候補させて頂きました。通所の生活指導員としてセンター内で人知れず勤務しておりましたので、長い年月、地職連を知る機会がありませんでした。

通所利用の方々のケース対応で関係機関や地域の方との連携を図るうちに地域福祉と兼務することになり、そこから少しずつ地職連の総会や研修に参加するようになりました。研修では目からウロコの学びが多く、さらには多くの仲間がいることも知りました。今までは業務の関係もありほとんど研修等に参加出来ていませんでしたが、今後は地職連の活動に積極的に参加し、一人でも多く県内ワーカーがつながるような地職連になっていけたらと思います。経験年数はさておき…地職連では若輩者ですが、役員として頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

「社協ワーカーです」のコーナーです



永松 泰貴(ながまつ やすたか)
筑豊ブロック
(苅田町社協)

平成三十一年四月から苅田町社会福祉協議会に入職し、地域福祉を担当しています永松泰貴と申します。地域福祉の業務に携わるようになり、地域の方の温かい心に触れたり、多くの方と出会えたり、この仕事でなければできないことを経験することができ、毎日刺激を受けています。生まれ育った地ではない町での勤務で、慣れないことばかりですが、地域活動に熱心な地域の皆さんや職場の先輩方のご指導のおかげで、多岐に渡る社協の業務の中にも、自分なりに楽しさを感じています。

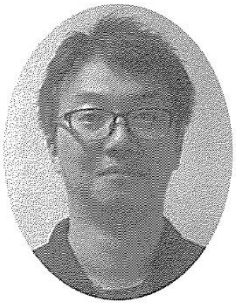
地域の方との出会いやつながり、そして、各社協の皆さんとの交流を大切にし、自分のスキルアップや地域への支援に結びつけていきたいと思います。そのためにも、地域の方が集まる場や地職連の研修等に積極的に参加していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

中尾 真央
福岡ブロック
（新宮町社協）

今年度より新宮町社会福祉協議会に入職いたしました、中尾真央と申します。主に地域と地域子育て支援センターなど子育て支援に関わる業務に携わっています。

私は社協に勤め始めてから、三カ月が経ち、「人と関わる仕事・人を支援する仕事」ということの楽しさと難しさを実感し始めました。楽しさの面でいえば、挨拶一つをとっても、徐々に地域住民の方と顔を合わせる機会が増え、笑顔を向けてくださる方が増えたことがとても嬉しく感じています。難しさの面でいえば、各世代の方と日々関わらせていただく中で、それぞれの方に合わせ、より話してもらいやすい雰囲気を作ることの難しさを感じています。

今後も、日々地域住民の方との関わりを通して、社協で働くことの楽しさを感じながら、頼りにしていただける社協ワーカーになれるように頑張っていきたいです。よろしくお願いします。



田中 克也
両筑ブロック
（筑前町社協）

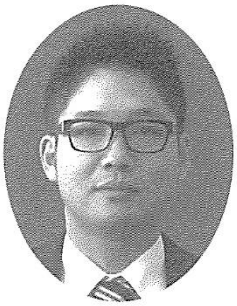
平成三十一年四月から筑前町社会福祉協議会に入職しました田中克也と申します。

総合相談係として主に障がい者福祉関係に携わらせて頂いています。

業務や住民の方々との関わる中で自分の力不足を感じる日々ですが住民の方々には気さくに挨拶や世間話をして頂き、心を和ませて頂いています。

また諸先輩方の住民の方々と関わる姿勢や行動力には刺激を受ける毎日です。

私は学生時代十年程、野球部に所属していました。その中で多くの人達の支えや協力があり、チームメイトと切磋琢磨する事が出来ました。野球というスポーツを通して学んだ経験や感謝の気持ちを忘れずに住民の方々と関わり、気持ちや思いをしっかりと受け止め、信頼関係を築きながら自分らしさを失わず、日々精進していきたいと思っておりますので御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い致します。



佐藤 紘次
両筑ブロック
（小郡市社協）

平成三十年十一月に小郡市社会福祉協議会に入職しました佐藤紘次と申します。社協経験年数はまだ八カ月と長くはありませんが何年も働いているみたい、とよく言われております。人より大人びた顔のおかげでしょうか。ありがとうございます。まだ一年未満で基礎勉強中です。社協に入る前は飲食業や製造業で十年ほど働いておりました。

地元小郡市に何かできることはないかという思いで社協に入るご縁を頂きました。

今の仕事は、地域福祉係として放デイ等を担当していますが地元の広さと各地区の地域性の違いに驚くことばかりです。知らないことが多すぎる。入職してからの感想です。

福祉の仕事は初めてで戸惑う事ばかりですが偉大な諸先輩方と地域の皆さまの協力により楽しく働かせて頂いております。社協人として繰り返しではなく積み重ねていけるよう努力していきますので、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

金子 彩乃
筑後ブロック
（みやま市社協）

平成三十一年四月にみやま市社会福祉協議会に入職しました金子彩乃と申します。現在は地域福祉係に所属しています。今はまだ分からないことばかりで、沢山の方々にご指導ご鞭撻を頂き、支えてもらうことでやっと仕事ができている状態です。一日でも早く今の支えられっぱなしの状態から、人に支えてもらうだけでなく自分自身も誰かを支えることができる側になりたいと思います。私なりに日々の仕事を一生懸命頑張っていきたいです。

高橋 彩乃
筑後ブロック
（みやま市社協）

平成三十一年四月から入職しました、高橋彩乃と申します。現在は総務係に所属し、経理や献血事業に関することなど、様々な業務に携わっています。毎日事務所で仕事をしていますが、窓口に来られた地域の方と接することは楽しいです。休みの日は、子どもと川に泳ぎにいったりお出かけをしています。プライベートも仕事も非常に充実しています。

「明るく笑顔で」をモットーに、地域のために真面目に業務に取り組んでいきたいと思います。

古島奈央子（ふるしまなおこ）
政令市ブロック
（北九州市社協）

四月より、北九州市社会福祉協議会に入職しました古島奈央子と申します。現在は小倉北区事務所のボランティアコーディネーターとして、業務に取り組んでいます。

社会人としても一年目の今は、毎日が初めての経験の連続で、目の前の仕事をやり遂げることで精一杯の日々を過ごしていますが、先輩方や上司の温かいご指導によりとても充実した三ヶ月間を過ごすことが出来ました。

また、ボランティアさんとお話しをする時間はとても楽しいです。人生の大先輩にあたる方ばかりですので、仕事のことだけではなく、花や木の名前、野菜のおいしい時期や色んな病気のこと、また地域のことなどいつも本当にたくさんのことを教えていただいています。

まだまだわからない事ばかりで、失敗や後悔をすることもありますが、そこから得た学びを今後に活かしていきたいです。そのためにも、今は様々なことに挑戦したり多くの人と関わることで、自分の知識や経験の幅を広げていきたいと思います。

一日も早く一人前の職員として、北九州市の地域福祉の充実に貢献できるように、努力してまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

先輩ワーカーからのメッセージコーナー

「伝えられることがあるだろうか」

西南学院大学大学院
人間科学専攻科　人間科学研究
博士前期課程在学中
木山　淳一

はじめに

数十年ぶりに、「まなこ」の原稿を書いています。

私は、一九八八（昭和六十三）年に稲築町社会福祉協議会に福祉活動専門職員として、中途採用で入職した転職組です。当時の社協職員には、福祉系の大学を卒業した人のほかにも、私のようないわゆる「分野外」からの転職者もたくさんいらっしゃって、わからないことだらけの私に、いろいろと教えていただいたことを記憶しています。それから数えますと三十一年の時が過ぎたことになります。そして、市町村合併によって誕生した嘉麻市社会福祉協議会を本年六月に退職しました。これまで続けてこられたのは、そうした方々の出会いや教えのおかげであったと心から感謝しています。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、退職間際のころに、この原稿依頼を受けまして、表題のとおり「私に何が伝えられるだろうか」「伝えられるようなことをしてきただろうか」を自問しましたが、お世話になった社協へのせめてものお礼の言葉を述べる機会ととらえその責を果たすこととしました。どうぞ、お許しください。

一・大切にしてきた視点って

「私が若いころは・・・」「昔はね・・・」などと過去を美化したり、武勇伝を語ったりするつもりはありません。読者の方にとって何の得にもならないでしょうし、敬遠されるのはわかっているつもりです。ところが最近、年齢のせいか気が付くと口にしている時があります。どうかその際は、ご寛恕ください。

原稿依頼の折、担当者様から「これまで大切にしてきた視点を」というご依頼がありました。

「さて」と考えてもお示しできるようなものはないのですが、心の隅っこにいつもあったことは「どちらか一方に立たないと見えてこない」という漠然とした思いです。

物事には多面性があり、いずれが正解とは言えない場面がたくさんありますが、しかし、生活のしづらさを抱えている人のケースなど、対立構図が存在する場合はそうとも言えません。自分の視点によっては、支援が真逆なものになることを考えれば、それは重要な問題です。

社協はとかく「公正で中立的な立場」と表現されることがあります。しかし、場合によっては、そんな存在が解決を遅らせたり、状況を悪化させたりすることがあります。恐れずに言ってしまえば「邪魔な存在」になってしまうのです。

差別をする側、される側、排除をする側、される側という構図の中で、どちら側に立ってモノを考えるのか、について私がここで改めて講釈するま

でもありませんが、こうした場合、社協内部での対立が避けられない場合があり、上司と相反することにもなります。とても精神力のいることです。時には疎外感を感じることもあります。でも、それが社協のワーカーに課せられた使命なのではないかと考えます。

過去を美化し、あたかも私がそれを貫いてきたかのようですが、決してそうではありません。ただ、そうありたい、そうでなければならないと言い聞かせてきたことなのです。

社協のワーカーとして誰に寄り添い、誰とともに進もうとしているのか、再考していただければ幸甚です。

二．権利擁護という権利侵害にならないように

入職当時、社協が市民の財産を管理したり、金銭を出し入れしたりするなどとは考えられないことでした。今では、日常生活自立支援事業や成年後見制度が社協事業に位置付けられていて違和感を持つ人は少ないことでしょう。（「社協がやるべきことではない」という論が存在することも聞き及んでいますが、今はその議論を避けます）権利擁護事業が社協の存在を知らしめる要因となっており、市民後見人など市民との協働による事業展開も活発化しているという現実面もあります。

しかし、金銭を管理することでその人の人生までも管理したり、金銭の出し入れだけに終始し、本来の権利擁護という観点が欠落しているという傾向はないでしょうか。「～するべきだ」「～してはいけない」と、がんじがらめに管理され、かえって生きづらくなってはいないでしょうか。

私も衝動買いをしたり、ついつい散財してしまったりして反省することがあります。でも、それもまた一つの楽しみでもあるし、誰もが繰り返していることだと思います。

社協が管理するばかりにそんな失敗も許されず、窮屈な人生を強いているとすれば、もはや権利擁護とはかけ離れた存在だと言わざるを得ません。「金銭は管理するけど人生までは管理しない」という基本的な理念が社協の権利擁護事業に求められるものだと考えます。このことは「どちら側に立つのか」という議論にも通じるところです。支援を必要とする人に寄りそうというのであれば、たまには「やっちゃいましたね」と笑いあえるくらいの社協ワーカーであってほしいと願っています。

社協が行う権利擁護事業とは、人の生き方を管理したり金銭の出し入れに終始したりするのではなく、地域社会における主体者として人間の尊厳と社会関係の維持のための営みだと思います。つまり、その人の尊厳が守られ、豊かな生活が継続できるような社会関係の基盤が整っているか、という点が重要であり、そのための活動だと思うのです。差別や排除に抗するという根拠がここにあると考えます。

地域で生きづらさを抱えている人の権利を擁護するという地域福祉の根幹的な事業に取り組む社協ワーカーに期待します。

三．最後に

偉そうなことを取り留めもなく語ってきました。読み直すと、きっと自己嫌悪に陥ることでしょう。

そう言いつつ、最後にもう一つだけ。世界に類を見ない少子高齢・人口減少社会の進展のなかで、「地域共生社会の実現」という福祉の領域のみならず社会全体としての命題があります。

地域福祉の本格化、主流化と呼ばれる時代にあって、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」としての使命を受けた社協が、この命題にどのように取り組むのかということについて、大きな期待と関心が寄せられていると言えます。

地域福祉を「公的責任の縮小」や「補完・代替」という批判にとどまらず、「住民自治」を基盤にした実践が求められていると考えます。今、あらためて「住民主体」「住民参加」といった社協の原点に立ち戻り、将来を展望する必要があるのではないでしょうか？

ある意味、社協ワーカーの本気度が試されているようにも思います。社協が誕生してもうすぐ七十年を迎えようとしています。これまで積み重ねてきた実践と理論という大きな強みを生かして、市民からの信託にこたえられる社協を示してください。

私は、現場を離れましたが、変わらず「応援者」でありたいと思っています。

稿末となりましたが、これまでお世話になった県社協をはじめ、多くの市町村社協の皆様、そして、貴重な機会を与えていただきました地職連の役員の方々にお礼を申し上げますとともに、より一層のご活躍を祈念いたします。

社協が○○をやる意味（社協的眼）

「社協は積極的に生活困窮者支援へ乗り出す必要はないのか！」

うきは市社会福祉協議会 地域福祉課 相談支援係
地域福祉活動コーディネーター　権藤 俊介

生活困窮者自立支援事業（以下生困事業）も早6年目。うきは市社協はモデル時から自立支援・就労準備支援・家計改善・学習生活支援の4事業を継続して受託。私も開始当初は学習・生活支援担当であったが、平成29年度から生困全般の担当として従事中である。

担当となってから参加した自立相談支援従事者研修では全国から参加した多くの仲間と知り合い、切磋琢磨させて頂く機会を今でももらっている。LINEグループで互いの進捗状況や悩んだ時に他自治体の支援手法を伺うなど、うきは市にとって必要な支援策を研磨する機会が増えたのもまさにこの繋がりのおかげである。また、福岡県内においても例外ではなく、今年度から各種事業を受託している団体の関係者と共に協議を実施している。生活困窮者支援を考える事が一人ではない事を担当してこの数年間、非常に心強く感じている。

しかし、今まで社協人として様々な社協ワーカーと一緒に仕事をしてきた身として、福岡県内で生困事業を受託している市社協（町村は除く）はごく一部であり、任意事業に至っては更に少なくなっている。県内関係者が集う機会では、ほぼアウェイに近い場所となっている事に対して少し不安な思いがある。

ご存じの通り、生困事業は生活困窮者の自立と尊厳を確保する事と、生活困窮者支援を通じた地域づくりという二つの目標が掲げられている。その中で、私たち社協職員が普段から地域福祉の推進に力を入れている事や関西圏での受託率を考えると、主旨も思いも合致しているはずなのになぜ福岡県内は今の状況なのか疑問も多い。

現在、県内で受託している市社協同士では、必要に応じて情報交換を実施している。特に近隣で生困事業を受託している社協とは、昨年度から必要な生活物品の在庫管理やその日に必要な物品が欠損している状況が発生しても、互いの社協間でシェアし合う取り組みを開始。今まで、必要に応じて何度も連動し合っている。そして生活困窮支援の大変さを共有している。きっと多くの社協も直接的な支援をできず、相談者が悩んでいるのではと危惧している。

昨今の事件の影響もあり、うきは市では多くのひきこもり相談・生活困窮相談が来ている。多くは40代から50代の長期ひきこもり状態にあった当事者及び保護者からだ。今、それぞれの社協相談窓口にも受託・未受託を問わず、生活困窮に関する相談に来ているのではないだろうか。まだ受託していない社協は今からでも社協が生活困窮者支援に乗り出してもらいたい。そして一緒に県内の受託社協ネットワークを広げていきたいと強く願っている。

編集後記

論語は、古代中国の思想家孔子の教えを弟子たちが記録した書物です。私は知人の奨めで、論語を読んでいます。今回、その中から、「子（し）曰（いわ）く、人の己（おのれ）を知らざるを患（うれ）えず、人を知らざるを患うるなり。」を紹介したいと思います。

この文章は、「孔子は言った。他人が自分を分かってくれないことよりも、自分が他者の価値を認めようとしないことの方を心配しなさい。」と訳されます。私は、相手から理解が得られないとき、理解してくれない相手のことを責めてしまったことがあります。他者の価値を認めることは、ワーカーとして当然のことです。しかし、今までの行いを振り返ると、相手の価値を理解する前に否定や批判をしていました。

まだまだ未熟な私ですが、論語に出会って自分の視野が広がったと思います。もし、何かに悩んでいる方がいましたら、読書の秋に「論語」をおすすめします。

（S・W）

★発行者　福岡県地域福祉活動職員連絡会
★事務局　〒830-1201
福岡県三井郡大刀洗町冨多819ぬくもりの館
大刀洗町社会福祉協議会内　担当：池松
TEL　0942-77-4877
FAX　0942-77-6220
E-mail　tachi-shakyo@kurume.ktarn.or.jp